

春
夏
秋
冬

36

2021 四季のコンサートだより

2021年9月20日発行

浜松音楽友の会
事務局
〒438-0078磐田市中央114-1
090-7034-5890(大場)
hamatomo1984@yahoo.co.jp

冬のコンサートに寄せて

カルテット・アマービレ

今年度冬のコンサートに出演します、カルテット・アマービレです。私たちは日頃から弦楽四重奏団として活動しています。もともとは私たちが桐朋学園大学に在学中に室内楽の授業で組んだグループで、東京クワルテットの創立メンバーである磯村和英先生に師事しました。学生時代から仲間と共に室内楽をするのは「心の拠り所」のような時間で、その中でも弦楽四重奏というのは他の編成にはない魅力があると当時から感じていました。そもそも作曲家がこの編成の作品を書く際に、その先に交響曲を見据えている場合があります。壮大で緻密なオーケストレーションを実現するための骨組みこそが弦楽四重奏で、どんな作曲家でも避けては通れぬ道なのです。彼らの初期の四重奏作品を弾く際には、先人に影響を受けながらもそれぞれの特色が滲み出ている様子を感じることができます。「大きな編成の作品への試作」である一方でカルテットは、「作曲家のエッセンスが詰まっているジャンル」でもあります。昨年の4月と5月、新型コロナウイルスの感染拡大で、人との接触をゼロにして家に留まる時間が続きました。その状況は日頃コンサートでお客様と音楽を共有することによってパワーをいただく私たちにとっても忘れ難い、辛抱の時間になりましたが、オンライン配信のような新しい共有方法が盛んになった瞬間でもありました。6月になって、指揮者でピアニスト、作曲家、チェンバリストでもある鈴木優人さんがエグゼクティブ・プロデューサーを務める調布国際音楽祭がライブ配信での開催が決定して、私たちも演奏することになりました。その時、メンバー間でなんの相談もせずまず思い浮かんだ曲というのがベートーヴェンの第15番作品132でした。というのもこの作品の緩徐楽章である第3楽章には次のような題がベートーヴェン自身によって書かれています。"Heiliger Dankgesang eines Genesenen an die Gottheit, in der lydischen Tonart" (リディア旋法による、病より癒えたる者の神への聖なる感謝の歌) これはベートーヴェン自身が重い病から回復した時期のために書かれたことによるもので、曲の中頃には次の題が続きます。"Neue Kraft fühlend" (新しい力をもって) 今よりはるかに新型コロナについての情報量が少ない中でカルテットとしてできることは何かを考えた時に、4人で自然にこの作品を弾きたいという気持ちと、真摯にじっくりと時間をかけて取り組んだ、印象的なコンサートでした。以下のリンクからアーカイブをご視聴いただけます。

<https://youtu.be/GDfXtApWzkQ>

今回演奏するベートーヴェンの第10番作品74、通称「ハープ」が書かれたのは1809年、ナポレオン率いるフランス軍がウィーンを占領した時代です。砲弾も飛び交い、ベートーヴェン自身のパトロンである貴族も国外に逃亡するなど、状況は悪化していた中で書いた作品は、絶望感にあふれているかと思いきや、ふくよかな響きで満たされています。ベートーヴェンらしい激しくてヒロイックなスケルツォのあとにはおおらかな変奏曲の最終楽章がきます。ベートーヴェンにしては珍しい優美な作品が彼が置かれた社会的情勢が最も深刻な時期に書かれたというのも、音楽が人の心にどのように作用するのかを垣間見るひとつの要因になるのではないのでしょうか。感染対策を施した安心できる環境で、皆さまと共に作品を共有することで、私たち自身もまだまだ気の抜けないコロナ禍を乗り切ることが出来る気がしています。会場でお会いできますことを楽しみにしております！

これからのコンサート予定

秋

林美智子メゾ・ソプラノ・リサイタル 10月7日(木) 18:30開演

歌曲からオペラまで、持ち前の温かみのある美声と抜群の表現力に満ち溢れた舞台で、聴く者を魅了する林美智子。メゾ・ソプラノという声の枠では捉えきれない幅広いレパートリーで、魅力たっぷりのリサイタルをお届けします。長年共演を重ねてきているピアニスト石野真穂との息の合った演奏をどうぞお楽しみください。



©Toru Hiraiwa

冬

カルテット・アマービレ 12月13日(月) 18:30開演

2016年難関で知られる第65回ARDミュンヘン国際音楽コンクール弦楽四重奏部門第3位入賞、併せて特別賞受賞。2019年ニューヨークヤングコンサートアーティスト国際オーディションで第1位を獲得し、アメリカでの活動が始まります。マルタ・アルゲリッチ、ダン・タイ・ソンらと共演するなど、今後の活動が期待されている旬のアーティスト。澁刺とした演奏にどうぞご期待ください。



©T.Tairadate

2022四季コンサート (予定)

～2020年の公演実現へ!!～

会場 アクトシティ浜松 中ホール 開場17:45 開演18:30 終演20:00 (各回とも)

春
4月21日
(木) Katoooon楽団
クラシック
～音楽の愉しさ満載!
異色のカルテット～

NHKを中心に、テレビ・ラジオでも活躍中の作曲家・ピアニストの加藤昌則。楽しくて、わかりやすく、なおかつためになるクラシック音楽講座でも話題ですが、その彼がプロデュースする、超異色のカルテットがKatoooon楽団。タンゴ界を代表するトップ・バンドネオン奏者の北村聡、国際コンクールでの優勝歴を持つ女性サクソフォンの住谷美帆などを擁して、古典からオリジナルまで、クラシック作品の面白さを存分にお楽しみいただきます!

夏
7月13日
(水) 朴葵姫feat.望月哲也「水車小屋の娘」
～ギターと声で綴る、
恋の悩みと喜び～

クラシックギター界のヒロインとして実力と人気を兼ね備えた国際的ギタリスト・朴葵姫。大人気ボーカル・ユニット「イル・デーヴ」のメンバーとしても活躍しているテノール歌手・望月哲也。共にウィーンで研鑽を積んだ2人が取り組む、シューベルトの大傑作「美しき水車小屋の娘」をメインにお楽しみいただきます。二百年の時と洋の東西を超えて、人間の心の機微を分かち合うことが出来る名作です。他にも朴葵姫による「アルハンブラの思い出」などのギター名作集も。

秋
10月28日
(金) ダニエル・シュー ピアノリサイタル
～浜松から巣立ったピアニスト～

2015年の浜松国際ピアノコンクールが始まりでした。ダニエルは18歳の最年少参加で3位入賞し、そこから彼のピアニストとしての未来が拓かれました。その後、かつて辻井伸行が優勝したヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールにも挑戦、見事に3位入賞を果たし、以降も着実に成長を続け、また来日の度に、新たな魅力を見せてくれる彼は、今や世界を舞台に活躍するピアニストに育ちました。それでも浜松は常に最も愛着を感じている場所です。彼が巣立った街での待望のリサイタル、ご期待ください!

冬
12月11日
(日) ゴールドベルク変奏曲
～「音楽の父」大バッハの名曲を
弦楽トリオで～

日本を代表するヴァイオリニスト・奥村愛、NHK交響楽団のヴィオラ奏者・御法川雄矢、そして、元オーケストラ・アンサンブル金沢の首席チェロ奏者ルドヴィート・カンタの、いずれも名手たちによる弦楽三重奏で、バッハの名曲をお楽しみいただきます。不眠に悩む伯爵のために書かれたという逸話が残っている大作「ゴールドベルク変奏曲」は、有名なアリアから始まり、季節が巡るように、アリアに戻って終わります。「2022四季のコンサート」の締めくくりにぴったりのコンサートです。

★事務局より★

2021年度コンサート再開にあたり、様々なお願いに対してご理解・ご協力をいただき本当にありがとうございます。継続希望のお葉書や温かなメッセージがスタッフの大きな励みとなりました。また、昨年度の会費をご寄付くださった会員様にも心より御礼申し上げます。

- ・今年度は指定席制とさせていただきます。おかげさまで、特に中央エリアはほぼ全席のチケットをお渡すことができました。秋、冬のコンサートで良いお席に空席が見られるかもしれませんが、ご欠席の会員様のお席ということでご理解いただけましたら幸いです。なお、皆様の座席を記録させていただきたくため、指定席以外でのご鑑賞はご遠慮くださいますようお願いいたします。
- ・来年度も指定席制とさせていただきます。今年度同様に事務局にて、4公演を通してなるべく皆様平等になるよう決めさせていただきます。お身体等のご事情でお席にご希望のある方は、2021年12月末までにお葉書またはメールにて事務局へお知らせください。なお、具体的な席番号の指定はお受けできませんのでご了承ください。今年度は事務局から希望調査の葉書は発送いたしませんのでご注意ください。
- ・会員登録は来年度へそのまま継続されます。退会希望、登録内容に変更のある方は2021年12月末までにお電話またはメールにて事務局へご連絡ください。来年度のチケット発送後の退会は、手数料として500円いただきますのでご了承ください。

新型コロナウイルスが未だ終息しない中での開催ではありますが、できる限りの感染対策を施し、皆様にコンサートを楽しんでいただけるようスタッフ一同引き続き頑張っております。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。